



1979 年 3 月 号



会報

NO.63

墨東ゴム工業会

事務局 東京都墨田区墨田町 2 丁目 3 5 番 6 号 長瀬ゴム内 TEL (614) 3501



第16巻 第2号

(才63号)

目次

年頭所感	長瀬二郎	1
年頭雑感	菅谷満良	3
景年の動きと中小企業(一般消費税問題等)	斎藤栄三郎	4
時の焦点……一般消費税について	広瀬一郎	8
福祉厚生委員会の歩み	田中昭二	10
座談会……その頃のゴム工業	司会 富岡光雄	11
中高年令者雇用を考えて	堀川英則	21
終戦前の私の歩んだゴム屋のあれこれ	鶴岡秀吉	22
老師夜話	曾我章	24
自分もよく、相手もよく、第三者もよし	右川清夫	25
香港日記	富岡光雄	28
トンだ大ちがい	堀川英則	29
事務局報告	桑沢謙吉	31

年 頭 所 感

会 長 長 瀬 二 郎

昭和五十四年の新春を迎え謹んで会員皆様のご健勝をお喜び申し上げます。さて、昨年は日中平和友好条約が締結され、日中友好のきづなの達成第一歩をふみだした記念すべき年でありましたが、わが国をとりまく経済諸情勢はいぜんとしてきびしい要因が山積致しております。

私共ゴム業界も全般的に、うち続く不況からの克服には至っておりません。いわんや中小企業のおかれた現状は将来に於いてもますます経営のきびしさを自覚しなければならぬものと考えてます。しかしながら一面わが国の産業構造は、中小企業を除外して成立し得ない事も明白であります。

当工業会は創立以来すでに十六年目の新春を迎えました。いたずらに好況時代の夢を追う事なく、諸般の情勢を根本的に見直し過去の良きものを継承

すると同時に新しい発想のもとに企業の体質改善と強化を徹底し不況からの脱出をはかるべく会員相互の情報の交換のもと、経営改善の強化を押し進める事を、取り上げる時と思う次第であります。

明日の繁栄のパスポートを入手出来る資格は企業体質の改善と強化以外にあり得ないと申せましょう。

会員各位の忌憚のない御意見を承り今後の会運営の指針を更に明確化し、当会の発展に微力を呈したいと念じます。

皆様の御協力を祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

昭和五十四年 元旦

長瀬ゴム工業株式会社

年頭 雑感

副会長 菅 谷 満 良

一九七九年の新春は好天に恵まれて平穩に迎えることが出来ましたが、会員の皆様方も新たな決意を持って新年のスタートをお切りになった事と存じます。昨年は皆様方の絶大なご協力とご支援を頂いて墨東ゴム工業会も長瀬新会長の元に若返った新しい工業会として有意義な一年を過す事が出来ました。

墨東ゴム工業会も満十五年を経過致した事になりますが、その間に高度成長から低成長への激動期を経験し、会員の中からも多少の犠牲を出した事は大変残念な事でご同情を禁じませんが、一方大多数の会員の方々がこの激動期を乗り切って健全な経営を続けておられることは心からご同慶に堪えません。

先日決定致しました四月から始まる次年度の政府予算案を見ますと、今期に比べて予算の伸び率が鈍化致しております。この予算案の物語るものは良くて現状維持、悪くすれば期後半に又景氣の後退があるのではないかとという危惧も持たれます。円高も最近は一応の安定を保ったかに見えますが、今年中には再び一七〇円前後に円高が進むのではないかという見方が多く、輸出力の減退は避けられそうもありません。又更に進む人減らし政策が公共企業体にも及び、

失業率が増加し賃金の伸び率も五パーセント前後に落ちつくとするれば国内需要の伸びも望み薄です。公共事業投資の拡大も昨年より低く、財源難を補う大量な国債発行と低利資金の氾濫がインフレを招くと心配する向きもあります。又原油の値上げが波及するコストの増大等を如何に吸収するかも大きな問題でしょう。マクロでは企業への低成長への即応態勢が整って減収の中にも増益の基調と伝えられていますが、ミクロではその皺寄せが我々中小企業に、特に下請企業に寄せられ、「乾いた雑布をしぼれ」というのが某親企業の合言葉であると感じます。

昨年、墨東ゴム工業会の三木会（例会）で参議院議員の斎藤栄三郎先生をお招き致しましたが、先生のご講演の中に一般消費税の導入は絶対拒否すべきだというお話がありました。然し政府は財源難切り抜けの妙手は一般消費税の導入以外にないと五十五年度導入を決意しようです。一般消費税の導入は製品原価やインフレ圧力の影響のみでなく、流通パイプの短縮化指向があり、流通段階の再編成が行われ、弱小の下請企業には親企業の自製化しようとする欲求により、切り捨てや吸収合併が強制されるようになるかも知れませ

ん。

このように今年から来年にかけての情勢は、私達中小企業にとって益々厳しい環境に立たされる事は疑う余地がありません。やゝ上昇氣運を伝えられる最近の樂觀ムードを蟹氣楼に終らせないためには私達工業会が、一社一社は弱くとも力を合せ、智慧を寄せ合って大きな力となり、一般消費税の反対や合理化努力等の同じ目的に向かって協力しなければならぬ時であると思います。

年頭に当って浅学な私が或いは間違った事を申し上げたかも知れ

ませんが、私達の墨東ゴム工業会は堅い理屈は抜きにしても、大変楽しい会でありたいとも念じております。経営者の安息の場として又情報場として利用され、会員同志の楽しい語らいの中に真の友情と結束が生れ、企業経営に実を結んで行く事が出来れば幸いと思っております。

今年も又毎月の例会（三木会）にはより多くの方々のご参加を得て、長瀬会長を中心に楽しくて為になる工業会を目指して進んで参りたいと思っております。

（ヒノデワシ株式会社）

景氣の動きと中小企業

（一般消費税問題等）

斎藤 栄三郎 氏 講演

今までの景氣というのは、良い時が二年で悪い時が二年、ほぼ四年間で一回転している。これを、景氣循環論といった。

ところが、最近の景氣はもう五年間も不況になっており、これを構造不況という。

これは、日本經濟の構造が変わったということで、どのように変わったかは次のとおりである。

第一に石油の値上がりが挙げられる。

四十八年の十月に油の値段が四倍になり、現在では五倍になってい

る。油が高くなって困っているのは石油を原料とする業者で、しかも、来年の一月には又5%上がる予定になっている。

では何故油をこのように上げるのかというと、油はだいたい三十年でなくなるので今のうちに高く売って工業化を計ろうとする中近東十三カ国（オペック）の考えからなのである。日本は、このオペックから油を買っているのだからオペックが油の値段を上げれば、上げないわけにはいかない。

第二に、発展途上国の追い上げが挙げられる。韓国、香港、台湾

フィリピンなどから安い品物がたくさん入るのである。工業物から農産物までこれらの国々は、ほとんど日本に輸入している。なかでも今年の韓国の高度成長率は11%で、造ったものほとんどは日本へ売ることを目的としている。この発展途上国の追い上げの対処としては高級品化を図るしかない。

第三に、円高問題が挙げられる。

昭和四十六年、アメリカの大統領ニクソンが「これからは、金とドルとの交換はできない」と言ったことから、円高(ドル安)が始まる。アメリカはベトナム戦争で千五百ドルという天文学的な数字を支出。それ以来ドルの価値は下がり、逆に日本円は高くなる。

これは、喜ぶべき現象なのだが日本円が高くなるということは、輸入は安い、逆に言えば輸出が高くなり輸出できなくなる。これを円高不況という。

11月1日に、アメリカのカーター大統領がドル防衛緊急対策として、ドルの売り物はすべて買うということで、アメリカ政府は三百億ドル用意してそのうち五〇億ドルを日本銀行にも預けて、それで日本に買い支えてくれという。このため、この日以来ドルは安定しているが、三〇〇億用意したところで四月までしか安定しない。何故かという、アメリカのエネルギー政策に問題がある。

現在アメリカは、エネルギー輸入の費用を年間三〇〇億ドル払っていて全世界にドルは四千億ドルある。四千億ドルもの大金があるのだから、アメリカ政府が三〇〇億ドル用意したところで、エネル

ギー問題を解決しないかぎり円高ドル安は、つづくのである。

そこで、来年六月東京で世界的首脳会議が開かれ、前に述べた円高ドル安問題について協議される。対策としては、アメリカが国債を出してドルを買い戻すことと、IMFからSDRをじゃんじゃん引き出して世界のドルを集めることであるが、どちらにしても各国の協力が必要である。

以上が構造不況についてである。

そこで、政府は景気対策を二つとった。

第一の対策としては、公共土木事業を増やすという事だが、注文を受けるのはほとんどが大手の会社で働くのは中小企業。中小企業にしてみれば仕事は増えたが儲けが少ないのだという。

第二に、構造不況対策である。構造不況対策は十種類ある。

造船・海運・綿紡績・羊毛紡績・合成繊維・アルミ・銅・鉄・ダンボール・石油化学である。

これらの石油化学のほとんどは、高度成長の時代に過剰すぎて現在では設備の83%しか動いていない。しかし、スクラップにするにもこれらのほとんどが担保に入られていたため、政府は信用保証基金をつくった。現在では、構造不況協会と信用保証基金の間では活動が始まっており、早くもスクラップ化は行われている。

構造不況の対策の第二で、これから行われようとしていることは企業城下町の救済である。新日鉄を例にとると、岩手県釜石市にある釜石製鉄所が挙げられる。この製鉄所では市の人口の四割が生活

をたてている。ところが、今度新日鉄が、この製鉄所を閉鎖する事になった。何故閉鎖するのかと言うと、今円高で海外から安く鉄が入る。だから外国と対抗するためにはもう二割ぐらいコストを下げなければいけない。そこで能率の悪い製鉄所は閉鎖するのだ。八幡製鉄所はすでに閉鎖され、代りに大分製鉄所がつくれ、釜石が閉鎖されてからは君津製鉄所がつくれる事になっている。だから、釜石市がどう困ろうと製鉄所は閉鎖することになる。

そこで、企業城下町の失業者たちのための救済として、特定不況地域安定臨時措置法ができた。これは、全国三十の企業城下町を指定し、その城下町で失業した人には九カ月の失業保険をくれる。新日鉄の釜石市の場合には鉄はだめなのでセメントへと産業構造を変えてゆくという対策。

現在、景気は富士山に例えると四合目、来年末には七合目にたどりつくだろう。ただ、今はっきり言えることは、再び高度成長の時代は来ないということ。近いうちに「中期経済計画」というのをつくる。それは、昭和五十三年から六十年までの七年間に日本経済をどのような方向へ持ってゆくかを決めたもので、それによると成長率は六%となっているから、少くとも昭和六十年までは、安定成長と考えなくてはいいけない。再び高度成長がくることはないの、六%でやっていけるように対策を講じなくてはならない。以上で、第一の議題構造不況についてはお解りいただけたと思う。

○

福田総理大臣は、今度の選挙でもう一度当選したらデノミをやりたいと言っている。コインや紙幣も大きさを変えずにデノミを行えば、面倒臭くない。デノミには賛成だが二つの条件を考えている。第一は物価が安定している時にやること。第二は景気の良い時にやること。第一の点においては、今がチャンスだが、景気(第二)は五十五年秋にならないと回復しないので、デノミを行うのなら五十五年秋が良いだろう。

○

米年の景気を大きく左右するものは、一般消費税である。これはヨーロッパで行われている付加価値税と全く同じ。内容を説明すると総売上げから総仕入れ高を引いて残ったものに5%の税をかける。大体1%で六千億円になるので5%となると三兆円の税収となる。

昭和五十三年度の税収が二十二兆円だから、そこへ三兆円となると大蔵省としては、ノドから手がでるほど欲しい。

しかし、この一般消費税には三つの欠点がある。第一は物価が上がる。一般消費税の税率を5%として物価は二・五%上がるだろうという。去年と今年の十一月では四・五%しか物価は上がっていない。ところが、もし一般消費税が実施されると7%の物価上昇になり悪税になる。

第二の欠点は課税が公平ではなくなる。というのは、この税は年間売上げ二千万円以下には課さない。すると同じ品物を売っているが、二千万円以下の売り上げのところ(店)と課税されるそれ

上の店で不公平が越える。

第三の欠点は景気が悪くなること。一般消費税は消費者が負担するものだが、これを消費者に転嫁できるかが問題である。転嫁できない場合には、結局企業が負担することになってその分儲けが減り景気が悪くなる。まず、ここではっきり言えることは福田さん、大平さんのどちらが総理になったにしても昭和五十四年度は一般消費税をやらないと思う。景気を悪くするような一般消費税には反対である。

○

現在通貨発行十三兆に対し手形が六十兆出ている。だからいくら自分が真面目にやっても相手が不渡手形を出すと連鎖倒産する。そこで、対策としては三つある。

第一に、今年（五十三年）四月にできた「中小企業倒産防止共済法」をつくった。従業員三百人以下の企業者ならだれでも入れる。いくつかの金額別コースがあり、五年間に不渡手形をつかまされなかったら六年目に掛け金全部が戻る。もし不渡手形をつかまされたら今までの掛金の十倍を無担保・無利子・無補償で貸してくれて、借りた金は五年間で返せば良い。

第二は、自己資本を増やすこと。

今、日本の会社は自己資本が一分五厘、他人資本が八割五分である。これでは儲からない。これから安定成長になって怖いのは金利である。従業員は週五日しか働かないのに金利は週七日働く。だから自

己資本を六割にする必要がある。自己資本をふやすために増資をするべきだ。それには、従業員や取引先に株を持ってもらうのが良い。

第三に新商品の開発が必要。

最近の新商品を挙げてみると、「VTR」、松下電器の「ゴマすり機」、三菱の「布とん乾燥機」、タップロール社が開発したイオン発生装置のついたマットレス。次はステンレスの風呂、ブリヂストンタイヤをはじめ各社が開発したスノー・タイヤ等。

このように新商品の開発に努力するべきである。そのためには、売り上げの三％を研究投資に回すべきである。

今、日本では二％しかないのをこれを三％にして新商品の開発に努力をつづければ今後やって行ける。

昭和五十三年十一月十六日

（三木会講演要旨）



時の焦点・・・一般消費税について

広瀬会計事務所

税理士 広瀬 一郎

九月十二日税制調査会では、売上高より仕入高を差し引いたものに課税する「仕入控除方式（荒利益課税方式）」を採用すべきだという意見を述べた。その後、経済諸団体の反対、自民党も反対、我が税理士会も反対する中で十一月十七日、村山大蔵大臣は一般消費税の導入時期を五十五年一月よりが望ましいと語り、今や一般消費税は完全に時の焦点となった。

消費税を分類すると①個別消費税（物品税）と②一般消費税となる。個別消費税は、一般消費税と比べると逆進的でないという長所があるが、反面租税による価格機構への介入で自由競争を阻害するという欠点がある。一般消費税を大きく分けると売上高が課税対象となる取引高税と、付加価値が課税対象となる一般消費税となるが、取引高税は既に経験したように、累積課税となることや印紙消印という手数がかる。今般、試案として発表された一般消費税がEC型の付加価値税と異なる点は(a)前段階税額控除方式を避け、各流通

業者が個別の取引ごとに送り状を書く必要がなく、事務手続きを簡素化した。(b)単一税率を採用する。(c)決算書と同時提出する。という点である。

このような一般消費税を何故税制調査会が構想として持ち出したのか、その背景を述べてみると、(I) 直間比率の是正論 (II) 個別消費税の合理化をする (III) 長期不況により国債発行残が累積し、この償還財源を作る。――となる。

直間比率とは所得税や法人税を中心とする直接税と物品税を中心とする間接税との比率であって、わが国ではアメリカと共に直接税のウェイトが非常に高い。直接税の欠点は、(a)税の重圧感が高い。(b)不況に際会すると、税収が激減する。この為この比率を是正しようというものである。個別消費税の問題点は、(a)消費構造の変化から税収の確保が困難。(b)所得水準の上昇から、ぜいたく品が大量品となり、商品別に不公平が生じた――である。この為今後は個別消費税については、新税に吸収しようとする考えと、物品税率の引下げを検討しようというものである。長期不況によって国債発行残が

累増したことは既にマスコミによって報道されている通りであって、このところ毎年国家予算の三〇％以上を国債でまかなっている始末であり、本年度（昭和五十四年三月）末には四三兆円見当、五十七年度末には九〇兆円前後になるといわれている。この償還財源に当てようというのである。

— ◇ — ◇ —

さて、このような新税が創設された場合、われわれはどうなるかを考えてみよう。

第一に、一般消費税は先に述べたとおり、荒利益課税方式であるから、赤字企業でも課税されるわけで、力の弱い企業では他に転化できるか問題である。第二に、手数がかゝらないとは云っても新税である以上、今までにない税務事務量が增加するわけでこの負担が発生する。第三に、免税点（試案では小規模零細業者——年間売上高一、〇〇〇万）如何で、税の中立性を阻害する。即ち同業者でも売上高如何で課税、免税となる。第四に物価上昇に拍車をかける、（社会党では十一月五日新税創設により一人当たり年間八万円の負担と公表）ことになる。ちなみに税制調査会（首相の諮問機関）の小倉武一会長は九月二十二日の衆院大蔵委員会に参考人として出席一般消費税の取り扱いについて①税率は五％から十％の間で決めることが適当である。②物価や景気への悪影響をできるだけ避けるため導入の時期は慎重に判断すべきである。③生活保護世帯など低所得者層への重税感を少なくするために所得税の調整措置や財政支出

面での配慮が必要となろう——などの意見を述べている。新税導入の時期については先に述べたが、税率は始め五％の線が強く、五％の場合の税収で二兆八千億円、物価上昇分の上乗せは二・五％見当と大蔵省筋は見ている。最後に一般消費税の非課税範囲について述べると、食料品、社会保険医療、学校教育、社会福祉事業、輸出取引、有価証券取引、不動産、金融、保険取引が上げられている。

以上



福祉厚生委員会の歩み

田 中 昭 二

墨東ゴム工業会では昭和五十二年度に福祉厚生委員会が新設され、会員会社の福祉向上の為に共同行事を企画立案した。具体策としては、一、従業員の表彰 二、運動会・野球・テニス・ゴルフ等の行事、三、麻雀・碁・将棋等の行事 四、観劇会等に就いて具体的に項目別の詳細な検討を重ねて今日に至っている。此の間の実施計画への分担作業に於て意見として、一、社会的な福祉との共通重複行事を区分化する 二、地域的な範囲に於ける設備の使用活用状況との組合せ 三、各

してまづ練習を行なう事が計画され、五十二年度より毎月一回鐘ヶ淵ゴルフ練習場に於て実施されている。福祉厚生委員会としては、今後ともに時代に適した方策で福祉向上へ一層の計画と立案、実施についての努力を行ない具体的プランの実行をはかりたいので、御指導を賜わらんことをお待ちしております。居ります。

（田中ゴム社長）



会社との行事の組合せをする等で行動の内容について現状下では予定日時の決定を年間に繰込み、大会的な行事計画を建てる事が困難の状況が考えられるに至った。特に現在の低成長期下に於ける各会社内での附加価値の増大が考慮される上で従業員の熱意・創造性・技術向上等によるところ多大であるが、一方では老令化の進行が見られ共通の問題点として煮つめる必要も生じていること、此れら現実的な問題の提示があり、此れに対応するため現在有力なる講師を招いて福祉関係についての講演会を開催して対処している。さらに毎月雑誌ニューモラルの会よりの配布も福祉行事の有効な協力となり、一方では会員相互の具体化計画を促進しゴルフ同行会を開催

その頃のゴム工業

昭和五十三年十二月七日(土)午後一時より於葵丸進向島店にて

① 鶴岡 ② 高田 ③ 杉本 ④ 芹沢 ⑤ 富岡(司会)

芹沢様、金星ゴム杉本様の御参集を頂きまして誠に有難うございます。

なお水谷様・鯉淵ゴム様・川口様、御都合がつかまきませんので、第一回の座談会は、御欠席のまま、始めさせて頂きます。

それでは創立時代の想い出話からまず、鶴岡ゴムの鶴岡様からお願ひします。

高田賢太郎氏 東京ゴム部長
鶴岡秀秀世氏 鶴岡ゴム社長
芹沢定之助氏 芹沢ゴム社長
杉本光市氏 金星ゴム社長
菅谷満良氏 副会長 ヒノデワシ社長
右川清夫氏 庶務部長 右川ゴム社長
司会
富岡光雄氏 富岡調滞社長

① それではこれから始めさせていただきます。
本日の座談会は、墨東ゴム工業会の会報、編集活動の一部と致しまして、又先輩を尊び敬老活動の一部と致しまして当会の創立以前、つまり戦前・戦時中・戦後の混乱期から、墨東ゴム工業会創立の胎動期までを、御長老・諸先輩の皆様よりお話しを承わり度いとお願ひ申し上げます所、東京ゴム高田様、鶴岡ゴム鶴岡様、芹沢ゴム

② 私がゴム界に入ったのは丁度ゴム玩具がクレームがついた時で、尤も困難な時代に遭遇した時代でした。その前にうちの親父が亀戸四丁目ゴムの靴をはじめたのでございまして、それから現在の吾娯町に移ってまもない時に、クレーム問題が発生したのであります。大体私の工場の創立に関してそのような状態でありまして、私が創立したではありません。しかし私は戦災に遭遇し、焼野原から全く新しく創立し、ここにいる富岡さんと手を組んで裸一貫、スバナー一丁ない時代から始めたのであります。
私の工場は、三月十日に焼け野原になってはじめて今日を築いたのであります。

③ 鶴岡さんの先代の時代は何を主にやっておられたのですか。

④ はじめ、千葉の九十九里から出てきて、大塚ゴムの職工をしており、ゴムの靴をつくることを習った。それから現在地のアズマ町に移って玩具の輸出をはじめたのです。

⑤ そうですか。戦后、私共も大変お世話になりました。統制の中でゴムの配給が受けられない時代に、わけて頂いたことを記憶しています。

⑥ 創業当時、私はゴムをはじめたのは、親父が炭の山を買い、炭が暴落して、その当時まだ新しい職業だったゴム屋に転業し、ゴム靴をつくるようになった。靴と云っても木型で靴を貼った。木型がやせてきて靴が小さくなってしまふのです。

⑦ 仕事をしていられるということが判ったのはいつ頃ですか。
私は二十の時、軍隊へ召集されたあと靴屋をはじめました。

私が軍隊から帰ってきて私をはじめました。その頃は、現在からみるとまことに幼稚だと思えますね。そんなわけでそれから継続して業種は変わりましたが今日に到ったわけです。

⑧ そうすると軍隊へ行かれたのは支那事変以前ですね。

⑨ シベリアのウラジオストクのループル紙幣がつぶれて、それが三文の値打ちもなくなった時代でした。私に軍隊へ行ったのです。大正七年の事です。

⑩ ロシア政府が潰れて、今の共産党となった。その時に満州から朝鮮にロシアの圧力があって、そういう時代だった。

⑪ 私ら兵隊の時はまだ朝鮮が非常に不安定な時に到る所に暴徒

だ暴徒だと焼き打ち等があったものですから、兵隊に出ても連隊には三〜四カ月しか居ないのです。暴動鎮圧の為に歩いてたわけですね。

⑫ それで帰られて父上の職を継いだわけですね。その頃は何を造られておりましたか。

⑬ やはり靴です。その時分は今のメリケンといって麻靴のちょっと深いものです。それと麻靴とヒモ付きの三種類しかなかった。ダルマという浅くて紐のないものですね。

⑭ 昔の朝鮮靴とも違うんですね。

⑮ 今の運動靴を総ゴムで造ったものですよ。

⑯ それから私の記憶では、皮靴ですね。今の皮靴の上につけるオーバーシューズが、一時ブームになったのを記憶しているんです。

⑰ あれは大体がダンロップかなんかでこさえたのが皆、真似をしたのです。うちはゴム靴の本当の始まりなんです。ですからね。皮靴をはいているよりもゴム靴をはいた方が巾がきいたもんですね。だからお勤め人や何か、皆ゴム靴をはいたものですよ。

⑱ 昭和十七年の七月十九日に東京ゴム革工業組合が設立されたのです。ですからそれ以前にゴム靴の製造は日本では各所で行われていたわけですね。これは昭和七年なので芹沢さんの云う大正の初めからそういうものがあったのです。

⑲ 今、思い出したのですが、靴をこしらえるのに昔はロールを使わずに簿記の棒がありましたね。あれを使って昔は貼り合わせた

ものですね。そんな事をしたものですよ。

① それは丸い所を？

② 丸い所でもコバでも、要するにまるでうどんをこさえるようなやり方でしたね。

③ それは何年頃ですか？

④ はじめた頃（大正七年）は皆そうでしたね。

大正七年頃からそんな事をやっていたのでしよう。色といえば靴は黒と紅柄しかなかったのですから、今日のように綺麗な色彩のものは全然なかった。もうロールで練ってもシートの肌が何回も何回もやって、やっとこさどにか出したものですよ。

⑤ その当時の配合というのは？

⑥ その時分は、配合師と云って、配合が出来るとそれだけで飯が食べたものですよ。配合師にやってももうわけです。材料を家へ買って置いて、それで何と何を混ぜてと配合師にやってももうわけです。配合師は教えないわけですよ。こんな事してたら仕様がないので、ですから同じ目方の缶を揃えておいてその中へ薬品を入れて使った後で差引いて使用量を出すわけです。それで配合を覚えてたわけです。

⑦ 創業の経営者は皆さんそういう御苦労があったわけですね。

⑧ それは親父が考えましてね、その真似をして後をどうにかだんだんね。とにかく靴でも幼稚なものですよ。

⑨ あの二カ月三カ月買った配合を全部つくってみて、ゴムに入

家として身をたてようとしたのです。

ところが丁度卒業の昭和六年は不景気のドン底にありました。そこで東京ゴムの初代の斎藤正毅^{キヤ}先生の当時の書生をして居られた松永東というお方（後に衆議院議長をされた方）に口を聞いていただきましたが、建築関係のどこかに入ろうとしたのですが、然しどこも不況で人をとってくれませんでした。たまたま其の時、義兄が東京ゴムに勤務して居りましたので、兄のすゝめに依り昭和六年に東京ゴムに入社致しました。入社したものの、ゴムに関してはさっぱり分りませんので斎藤先生から、お前は会計の方もやってみたり、事務の方もやってみたり、色々やってみなさいといわれたのがきっかけで今日まで四十七年位になりました。だから創立当時というのは明治45年で、歴史は古いらしいんです。当時猿江の工場と墨田の工場とありまして、斎藤先生は当時弁護士をやっておられました。弁護士をやっておられるかたわらゴム工業をやっておられました。そして震災で猿江の工場が焼けまして全部墨田の工場に移りましたのが現在の東京ゴムです。私が小さいまだ小学校に通って居るところでしようか、猿江の工場へ行ったことがあります、その時分は玩具のゴム毬を造って居る様でして、総て手貼りで中にアンモニヤ、（粉末）を入れ、蒸気乾燥して、其の仕上げは貼り合わせた箇所を女工さんが紙繻でこすって仕上げをしていたような記憶がします。其の後は「ガラ」の仕上げになった様です。

⑩ その頃東京ゴムで人形を作っていたでしょう。

れてみてつくってみたという創業者の話を私聞いた事がありますよ。

⑪ その時分、靴が満足に出来れば、問屋様で引っぱりっこで買ってくれたものですよ。又何回も何回もやりそこなってはつくったものですよ。

⑫ やっぱり蒸し釜を使ったわけですか？

⑬ 蒸し釜です。一台で四十〜五十足、ケツあぶりの蒸し釜です。四尺×八尺の、一回毎に水を入れて蒸す蒸し釜です。

⑭ 懐かしいお話ですね。

燃料は？何を使ったのですか？

⑮ 燃料は石炭です。石炭でケツアブリで蓋をして、それをあげるわけです。もともと蒸気を送るのでなくて、その釜で蒸気を出して一緒に蒸してしまうのです。要するにオコワをふかすのと同じですよ。

⑯ 杉本さんのお話しも又、素晴らしいお話があると思いますが、有難うございました。

⑰ それでは東京ゴム製作所の高田様のお話を承りたいと思います。

⑱ 私自体、^{イワユル}所謂根っからのゴム屋ではないのです。元を正せば私は大体建築出身なのです。最初築地の工手学校を卒業して、親父が大体建築業で有った為、お前は建築関係に進めと云う事で更に新宿の工學院の建築科に行きまして其処を卒業後、現在芝浦工業大学で有る元芝浦東京工学校に入り、その建築科を出て自分は、建築

⑲ いや人形はそのあとなんです。その時は大体がマリが主で多少玩具の人形とか動物特に当時ネズミの動物が良く売れた様で、其れにはセルロイドの缶が付いていて押すとビーンビーンと云って啼く玩具でした。輸出に良く出た様でした。

斎藤先生は却って昔工場巡視の折にたまたま羽織袴で工場の見廻りの時、ロールの処に行きました折に何かしてロールに手を出したのですが、その時袂を喰われました更に右手を喰われたところを左手で抑えようとしたもので更に左肘も多少喰われまして、右手は完全に義手になってしまったのです。

私が入社した当時、多少玩具他に工業用品・医療用品の業種で、特に工業用品の中自動車用のファンベルトを造って居りまして、これを現在のいすゞ自動車に販売して行ったのが始まりで、其れ以来今日までずーっといすゞ自動車さんのおつき合いが始まったわけです。いすゞさんとはそれから四十年以上の取引実績があるわけです。

⑳ 昭和六年当時の想い出話ですね。

㉑ そうですね、私など入社当時は腰弁でしたよ、月給も初任給は三十五円でしたよ。背広も着たくとも造れず当分は学生服で通じ然も最初の内は背広を着る事が許されませんでした。昔で云う小便さん見たいでした。背広は其の後しばらくしてから御許しが出た様な訳です。

㉒ 日本ゴム工業史によると野本ゴム製作所継承と書いてあるの

ですが、これが東京ゴムさんの前身なのですか？、一九一二年大正元年です。

④ あゝそうかも知れませんが。それは、多分そういう経歴が残っていると思います。

最近の報知新聞に野沢社長が話された事、詳しくのっていると思います。

① それは会社にありますか。

② 多分あります。お送りしますよ。会社案内も一緒にまとめて送ります。(30頁参照)

③ 東京ゴムさんは特に明治製糖さんとか一つの大きなコンツェルンの中に居らっしゃるということは私共存しております、日本ゴム工業会の年譜でも拝見致しております。

④ それは東京ゴムでなく三田土ゴム(現昭和ゴムに合併)の話でしょう。

⑤ 次に金星ゴムの杉本さんに創業時代のお話、それから特にこの前の座談会のアンケートに、若い役員さんがはりきって合理的な活動をやって下さってというお誉めの言葉をいただきまして大変有難うございました。

⑥ 企画もほとんどたてて色々な事を実行して下さい、私共に体力があれば色々な会合にどんどん出たいと思っております。で私がゴムをはじめたのは今なくなりましたが東都ゴムに入る前に亀戸の天神橋に千代田ゴムというのがあったのです。タイヤとホースを

やっておりました。そこへ友達が行っているんでこないかというので千代田ゴムに入った。小学校出てから十五か六でした。一年位居ました。当時給料日給一八銭でした。お盆に二〇銭になりました。亀戸まで浅草から通っておったのですが、東都ゴムさんに募集しているから来ないかというので、東都さんへ移ったのです。その時、サクシオンホースといって消火器のホースですね。赤いゴムが一番上へ巻いてあって、六分のマントルへまいてスパイラーをかけて、木綿の紐を下の口線にまいて、線の上にゴムをかけた布をかけたたりしてスパイラーでまいて蛇管のあとをつけ、鉄管のまゝ長い釜へ入れて蒸したのです。

そんなやり方だったのです。私が千代田へ入りました時は相当大きなものをやってまして工事に使うから大きな鉄管にまきつけて作る口線とホウ線というのがありまして、口線というのは一番下にワイヤが来るのです。ホウ線というのはゴムを巻きまして、ゴムの上に布をまいてハリ金をまいてその上にゴムと布をまきつけて、ハリ合とハリ合の間の所に木綿の紐をまきつけてウズマキにまいていてあゝいう線をつけたわけです。

私は千代田に居た時は大きなものばかりだったですね。三時から四〜五時の径のホースをやっていたのです。ところが東都へ行ってから消火器のホースで内径が五分か六分でした。そして大体そういう形式になっていて、それを送っていたのが六十年前になります。千代田で造ったたといっても東都では小さいサクシオンホースで長

さも一米ちょっとでした。だから、本当の小さい細いものでした。

だんだん大きなものをつくるようになって、いつまでも使われていたんでは面白くないから、一つ独立してやってみないかと云われて東都ゴムの中に小海栄三さんといってこの人は東洋ゴムの出ななんです。それから久保田文造さんという弟さんでやはり東洋ゴムに居られたんです。その二人が一緒にやらぬかといわれたので大正通りに洋品屋をやっておられた川口正二郎という人と四人で合名会社をつくったのです。それが現在の所なのです。その当時の資本が五千元で地所をかりて東洋紡の古材を大八車でもってきて、地上げバリケードから柱をたて建物まで大工の棟梁をよんできて、私等が働いてデッチあげたものです。しっかりしている建物でした。

そんなわけで、給料はどんどん上がるし、工場をはじめた時は合名会社だったのですが、四人で一年間給料をもらわず、まる一年たった時一人百円を餅代としてもらった。それだけ四人でやって一生懸命ためたわけです。ホースをリヤカーに積んでもって行っても百円になったのです。

そういう時代に私等はやってきたのです。ですから、物価はまるで違うからですが、それから工場が二つに分れてしまうのです。その時は配給が秘密なのです。東都ゴムで配合を覚えようと思っても、先輩が配合帖をかくしてしまふ。昼飯時に配合帖を持って帰ってしまふ、午後から又配合帖を持って帰ってくるのです。いったいどういう配合をするんだかと一回忘れて行ったのを見たことがある

んです。ところが全部符牒なのです。だから判らないのです。それを解説するんです。

① 皆さん、配合師というのは時代の寵児だったようですね。

② 配合がどうしても判らないので、この前三木会で技師さんが来て配合の話をしましたね。その時にゴムはねんどと同じだから、ねんどを入れて御飯蒸してふかしたという話をききましたけど、私なんかもこれから追っばなされてゴムをつくれといわれても、ゴムと炭カルと硫黄、その位しか知らないんですからね。それで色んな薬品が出来て、あれを混ぜこれをまぜ、量を大きくしたり小さくしたり原料の分を余計にしたり色んなことをやりそのたびに小さな一尺五寸位の釜がありましてその中に入れて蒸したものです。それでこれは弾力がないとか、ちぎれるとか、何回も何回もやったものです。見本をこしらえたものです。私は配合と云って他人から教わったものはないのです。皆、自分で考え出したものなのです。はじめからこれも慣れてくるとだんだん判ってきて、ねんどを入れないまでも炭カルと硫黄を入れてゴムが出来た時代ですからね。簡単なものだったんです。その簡単なものをやりながら、どうやら今の様な複雑なものを作りながら、どうやら今の様な複雑なものを作るようになりまして、あまり薬品がふえまして今の私を私は覚えきれないのです。覚えようと思うと次の薬品が出来てしまふんですね。だから配合帖をみてもこんなに薬品を沢山入れるのかなと、今の若い人の配合はね。それに配合はどんどん公開するようになりましたね。公開して

もらっていたら私はその時分助かったらうと思うんですね。全然かくしていたもんだから、手さぐりで、やっとホースを出したんです。一と月位、寝る間も惜しんでやりました。夜は寝てて考えているんです。あれが悪かったか、どうだったかと朝目が覚めると工場へとんで行って、色々と修正をするのです。そして又それを機械にかけたものです。又、蒸している間に次のものを考えるのです。だから私は他人の配合を取ったり教えてもらったものではなく全部私があみだしたものののです。私の若い人がそれに輪をかけて改良していますので段々いい配合が、出来るようになりました。ゴムも段々すゝんできましたね。耐酸・耐アルカリ・耐薬品など立派なゴムが出来ますね。全くあれは勉強してやっている時分から考えると、よくこんなものが出来たなと感心するのです。

Ⓐ 大変な御苦労話を拝聴し有難うございました。次に統制当時のお話しですね。

Ⓐ 戦時中の有名人といえは渋谷雄太郎氏でしょうね。あの人は物すごい権力でおさえつけるのですよ。我々東部組合で質問をすると物すごい勢いで反駁するんですよ。落合の東京ゴムの小島さんという方と、帝都ゴムの前社長の田口銀蔵さんとが中年で、私が若手でバリバリの頃で、何といっても、渋谷さんをやっつけようと勢いこんでいました。

Ⓑ 実質的な仕事よりも、政治的手腕が買われていたんですね、あの渋谷さんという人は。

たそうです。それからだんだんいすさんの仕事をしていったそうです。ですから、我々召集された者よりも残った人々の苦勞の方が大きかったそうです。

Ⓐ 先程話の出た統制会、東京ゴム同業組合で配給を受けてくるのですが、これはどれとどれを作っていくら配給を使ったという事を出しているわけです。お得意さんは軍から注文を貰って、我々に注文をよこす。それに対してその原料配合はこれとこれを使っていくらでできるという。では原料はいくらと横の方から配給がくる。それをもらって検査をして、値段を決めて出したことを覚えていいます。

あの近所にあった田岸さんが親会社になるわけだったんです。ところが段々条件がきびしくなってくるのです。自分の財産を唯もってゆかれるのではつまらないからと、親会社の田岸さんに断わって失業してもやめてしまおうと、配給もなにもなく、原料がなくて仕事をやるわけですから、綱をくぐりくぐり仕事をやったものです。当時、中野電信隊を出ていたものですから、防衛隊に引っぱられまして、その間に工場は全部焼けてしまっていたのです。私は寺島第一小学校へ駐屯していました。三月十日の空襲の時も、私は経理でしたから書類をもっていつでも逃げられるようにしていました。

軍隊では死んだ人は居なかったようでしたが、隊を抜け出して行って自分の家の防衛に当たったり、商売をしたりしてあとで帰ってき

Ⓐ なんてって統制時代は渋谷雄太郎、最後には失脚しましたけれども。戦争が始まってからは軍部からおさえつけられてしまっていたようですね。

Ⓑ 小島さんですが、この方は、衆議院議長の堤清次郎の長女のお婿さんですね。

(この間、マイクボタンを取扱い手違いから入っておりません)
Ⓐ いわゆるゴム統制時代にはタイヤとか、工業用品とがその中に医療部会とか、印材とか。

Ⓑ それから総合部会というのがありました。

Ⓐ その部会でゴムの総量が決まりますと割当てをするのです。実績によってきまるわけです。その前に企業整備で、大体この工場は何吋ロール何台、プレスが何台とか能力を出して、それに見合った算出方法で、原料の割当が民需でくるわけです。

Ⓐ 原料をもらってくるわけだけれど現金で、原料をもらうわけです。だから戦争当時は原料と資材と、お得意さんをどうするかで非常に苦勞したそうです。戦后、家の工場の近くで、トマトをつくらたり、大根をつくらたり、そして帰京した連中にこの野菜づくりをやらせて給料を支払ったらしいのです。大体六〇〇人位になってから、丁度二〇年九月二日、墨田で煙をあげたのは東京ゴムが一番だったそうです。東都ゴムさんも長瀬ゴムさんも煙が出てなかった。

さて仕事を始めたけれどやることのない山野愛子さんの所で頭につけるゴムとか石炭関係の安全灯のバッキンなどをつくって苦勞し

た人なども居ました。

空襲が終わってからはその跡片付けで、ゴムの配給もなく仕事も出来ないわけです。ヤミで何かこしらえるという時、半島の人が少しでも原料を持っているというところとそれにとびついて買いに行ったものですよ。

Ⓑ ロールはどうなっていましたか。

Ⓐ ロールはやる前におさえられてしまっていました。近所で残った所へ持って練ってもらってそして貼り合せたものです。空気の玩具とかゴムと名のついたものは何でもやりました。

その時の苦勞というものは、若かったからずいぶんやりました。命がなくなるようなこともありました。又綱をくぐって原料を買い出しにゆくこともやりました。統制会の渋谷さんにはひどい目に会いました。自分ではやらないでひとをつかって私共の原料の配給をだんだんへらしてゆくのです。原料が欲しかったらこっちの云う事をきけというのです。

こんなにしめつけるんならよしとばかりに訴状を書いたんです。そして、有名な弁護士の方へもっていったのです。そしたら大変だといって渋谷さんが飛んできたんですよ。家へとりさげてくれというのです。いやとり下げるわけにはゆかぬと、こちらはがんばっちゃったのです。丁度出雲ゴムの雲野さんが、渋谷さんと一緒に私の出先きの水上温泉まで追っかけてきて訴状をとり下げてくれというのです。私は雲野さんにはいろいろ世話になっていましたから、で

はお任せしますということにしました。

① 戦後の高度成長期を迎えるわけですが、一応これでしめすが。商売と別れ墨東の故事来歴などについて如何でしょうか。

② 僕なりの話をしますとね、昭和六年当時、東武なんかなかった時でね。浅草迄、地下鉄で行ってね、浅草からバスに乗るんですよ。バスは銀バスとか云ったんでね。それに乗って白鬚まで来るわけです。

ある時は浅草から蒸気に乗って白鬚の橋の袂の小松島迄来るわけです。そこから会社迄歩いたのです。だから随分変りました。あれは随分時間がかかりましたよ。今の交通機関で一時間十五分ですからね。かれこれ大分かかりましたよ。

家の工場も私達が入った時分は今の長瀬さんのグラウンドのあたりが織紡の杜宅がありました。そこで四ツ手の網で魚を取っていました。今はそんな面影もなく立派なグラウンドが出来ちゃうし。頭初家の工場はお差かしい話、プレスなどと云っても傘をさしてプレスをしていました。自動ではなくハンドプレスで、そんな時代でした。

③ あの辺りはゴム屋さんがかたまっていますですが昔からですか？

④ 日本東部ゴム工業組合が設立された当時は、かなり政府の息がかかっていて自主的に組合を造ったのではなく、つまり同業者が目的を持った同志が集まって造ったわけでしょう。

昭和十五年の七月に商工省から依頼されて検査協会をどこに造る

それをひもとくとゴムの発祥の事が良く書いてありますよ。

⑤ それを三田土さんが始めたところですか？

⑥ いやそれは三田土さんじゃないんですよ。けどそれがゴム工業の発祥の地とかなんとかいうので今でも野沢社長が年一回三田土会に参加していますよ。ほくも一度ゴム屋だから見るように言われたけれど稲荷町のなんとかいいましたかね。

⑦ あのね、これは亡くなった副会長が、私が案内するよと言いましたが途中浅草なんかで寄道して行きませんでした。私の父が始めて工場を造った時葛飾郡寺島村字新田なんとかと言う登記簿があるんですよ。今は田んぼの所とゆうとやはり草加とか八潮とかで、公害問題が大変ですけど、当時煙突があってゴム工場で労働者が安い賃金で何時でも雇用出来る地域とゆうとやっぱり此々だったんですよ。だから山の手はやっぱりそういう人口がないわけです。やはり此の辺にゴムが盛んになった、さっき高田様からお話し頂いた大正末期から昭和にかけての隆盛期にはこの辺がゴム工業にふさわしい所だったのではないのでしょうか。

⑧ 隅田川がやっぱりいろいろ運送の足だったのでしょうか。

⑨ 向島と足立をチェックしてみたら統制の時のが一部六部までありまして、だいたい業種別に分けてあり一部が軟質硬質ゴム製造業者で、昭和十六年に向島地区に五十二社あった。二部が薄そう及び布引ゴム製造業者これが向島地区に九社。三部が製品販売業者、商業者もはいつて向島地区に約八十社。四部が原料及び薬品販売業者

かと云う事で東京都の地図にゴムの工業家のピンを指して見たらそのまん中が白鬚の検査協会だった。

② あそこの検査協会は当時ほとんど輸出になっていたのでは無いのですか？

③ 統制の第一歩が此々から始まって戦時体制になって強化され陸海軍の物資をお前達がチェックして軍に納めるようにと云う形に強化されて、そのピンを全部立てて見たら白鬚のあそこになった、と云う事を私は親父から聞いた。

④ 墨東地区に現在ゴム屋さんが多いのですが、では何故此々に集まったか云うルーツですね。それは本当の事を言えばどうゆう事なのでしょうか？

⑤ これは私一ツあるのですが、これは今の形で言うとなかなか理解むずかしいのですが……今の形で言うとおそらく松戸とか川口とかあの辺の位置になるのではないのでしょうか？ゴムの環境がつまり市街地からちょっとはなれた所ですね。

⑥ そうゆう場所は東京には外にいくらでもあるはずなのに此々がなかったか云うことですが……此々にかたまったか？

⑦ それは労働力なんです。山の手は労働力がないんですよ。

⑧ だけど東京の周辺はいくらでもあるはずでしょう。だからいろいろな工業が集まったと言う事は確かでしょうね。

⑨ 何んかゴム工業発祥の地とゆうのでね。三田土会の中でたぶんゴム発祥の地とゆう碑が稲荷町のどこかにあるんですよ。

これが向島地区に約二十社。五部は再生ゴム原料販売業者リクレームこれが向島地区が二社、足立一社あとはみな荒川ですね。再生ゴム業者と云うのはゴムの一つの形を作っているのではないかなと思うんですよ。再生ゴムとゆうのはゴムの一つの都市からゴム屋よりも少し外側に居るんですよ。

⑩ 荒川区はそういうゴム屋さんが多いですよ。だからある意味ではゴム屋とゆうのは都会のまん中で出来る商売ではないですよ。いつも都市の外側でそれも同じですが外側でない所でないといえないですから……墨田区辺りにそんな訳で必然的に集まって来たんですよ。

⑪ 経済活動に一番良かったんですよ。地域的に……品物どんなに入るし、こしらえたものを売りに行く。

⑫ 村岡さんがやっぱり市川に根を下ろしたのもその辺ではないんでしょうかね。三河島に近い所で、しかも製造業者に結びついてるということですね。

⑬ だから燃料なんという和我々の所は石炭でしょう。昔は石炭入夫が来て、貫々で立ち会ったのですよ。ハカリ置いといてカマス毎がついで目方をみながら量りの上に乗ったのですよ。朝からお屋頂になると目方が軽くなるのです。腹がへってきて。

だから目方少しへんだなという、いや腹へったんですよというのです。あれも乗り方によって目方がピンとはるのですよ。それをこまかされるな、こまかされるなとよくいわれたものです。

⑭ では大変貴重な話を有難うございました。

中高年令者

雇用を考えて

堀川 英 則

この何年か我が国の雇用と云う話の中に、必ずと云って良い程、中高年令者の雇用に関する事が出て来ます。これは若年労働者の雇用の難かしさに加えて、今後の日本は高令化社会になる事が決定的となった為と考えます。世界的に見た場合、すでにフランス・スエーデン・イギリス・ドイツは一九六三年～一九六六年の間に六〇才以上の人口が一八%に到達しており、我が国は一九九五年に到達するであろうと予測されております。(厚生省資料による)また、企業における年令構成のバターンも過去の高度成長下には、ピラミッド型、ヒョウタン型が大半であったが、今後は逆ピラミッド型及びチョウチン型が一般化されると云われております。また一方の平均寿命は明治三二年～三六年頃、男四四才・女四五才、大正一〇年～一四年頃男四二才・女四三才、昭和一〇年～一一年頃男四七才・女四九才であったのが、現在男七三才・女七八才と明治・大正時代に比べ二倍近く伸びを示しております。人間が高年令化すると肉体的には能力低下の一途を辿る事は誰れもが認める事実であります、一方では「教育された人間の能力は低下しない」……アメリカのグリーンンの研究……と云うデータもあります。我が国の機械振興協会経済研究所の調査でも加令と職務遂行能力は比例するという結果

があります。

ここで高年令従業員の特質を大まかに上げてみますと長所として

- ① 真面目で良心的である。
- ② 豊富な知識・経験をもっている。
- ③ 遅刻欠勤が少ない。
- ④ 若年層が嫌がる地味な仕事もよろこんでする。
- ⑤ 人間関係の処理にたけ職場のまとめ役として役立つ。
- ⑥ 注意力があり細心な仕事をする。
- ⑦ 優秀な技術・技能を持っている。
- ⑧ 若年層の指導育成に役立つ。

短所としては、

- ① 体力的におとろえて能率が落ちる。
- ② 新しい技術に対する適応力がない。
- ③ 過去にこだわり知識経験が陳腐化している。
- ④ 進取の気持に欠け仕事にむらがある。
- ⑤ 指導・管理能力に欠ける。
- ⑥ 物覚え仕事のノミ込みが悪くミスが多い。
- ⑦ 人間関係の能力が不足し職場にとけ込めない。
- ⑧ 楽な仕事ばかり選びたがり仕事に不平不満が多い。

「産業ジエロントロジー」(日本経営出版会)より

以上矛盾する箇所も大く有りますが、中高年令層の有効活用は、企業内の中高年令層の有効活用は、企業内の中高年令者に対する能

力把握と適職への配置、中高年令者自身の自己洞察を基にした意識の变革が一つの大きなポイントとなると考えます。中高年令者対策に即効薬はない。またスタッフだけでなくラインの管理監督者の全面協力が必要とも云われております。一説に一九八〇年代前半は中高年令層の人事労務が会社発展のカギとも聞いております。乗り遅れない様に、遅ればせながら切符を買い初めたところです。

昭和五十三年一二月下旬

(堀川ゴム社長)



終戦前の私の歩んだ

ゴム屋のあれこれ

鶴岡 秀 世

私がゴム屋に入ったのが昭和十二年の頃でした。当時、鶴岡ゴムは一番苦しい時でありました。玩具の輸出のクレーム時代で当時のゴム界の大嵐の時、つきつきゴム工場は倒産して居った時でした。亀戸の村岡ゴムさんは玩具をやめて再生ゴムを造り始めて全く経営を乗り切ったのでした。私の先代もこれに習って村岡ゴムの安斎氏を引抜いて再生ゴムを始めたときでした。毎日再生ゴムのサンプルを持って、自転車で売りに出ましたが中々売れない。何とか売る方法を考えなければと考えてゴム工場の資材係よりも配合屋さんを手なづければ売れるんじゃないかと思い工場の終業時をねらって、その工場の配合屋さんを捉えて赤チョウチンで一杯おごって再生ゴムを買ってくれる様頼んだところ、これが成功しました。次々にこの方法を考えて売込作戦を立てたのでありました。こうして当工場で製造する再生ゴムは一応販売ルートに乗ったのですが、元来再生ゴムは屑ゴムを粉碎して油を混ぜて五時間位蒸してロールで練り上げる丈の作業、全く簡単な作業で私としても何んとも物足りない仕事でしたので、ゴム製品を作って売ろうと云う気持ちになりました。

当時、坂田ゴムの工場長であった故押見正之助氏と懇ろであったので色々と相談した結果、押見氏の云う事には俺も今独立する心算であるからお前も何んとか援助してくれないか、と相談を受けたのでした。この事を親父に相談した所、宜いだろうと承諾を受けたので彼は早速葛飾区の立石に昭和ゴム化学工業所を創立したのでした。これから故押見正之助氏と一日置き位にあって製品の製造に知恵を借りたのでした。工場の隅にプレス四台を入れて昭和ゴムの紹介で室谷商店を紹介されました。室谷の親父は中々の遺手で値段を最低にたく営業方針でした。先ず手始めにくれた品はポンプの弁（ライト弁）でした。一枚七銭でやって呉れと云われ、四五万位仕事をしました時、彼から電話があつて半分位は不良だが相談に来て呉れと云われましたので、店の倉庫を見に行つて製品を調べた所、ぜんぜん不良とは思われませんでした。先方はお客、先方の言う事を或る程度聞かなければならないと観念して何とかならないかと相談した所、一枚三銭値を引けば売ってやると云うのでした。私も製品を始めたばかりでしたのでこれを吞まざるをえませんでした。全く素人の情なさで泣く泣く引込んでしまふほかにありませんでした。余りに癪にさわつたので、此の製品は何処へ室谷は売っているんだらうかと調べましたら、名古屋のポンプ業界という事がわかりましたので私は早速名古屋に出かけて電話帳でポンプ業界の住所を調べ、近藤ポンプ・猪飼ポンプ・川本ポンプ等、数軒めぼしい店が判り早速其処へ尋ねて行つて売込をしたのです。何んと値段は名古屋の或る

ゴム商店で一枚十四銭以上で買っている事が判り、何んて儲けているんだらうとあきれ果てました。斯くしてポンプ屋へ室谷商店の売値の倍で売込みが成功したのでありました。そればかりでなく、支払いが札束の現金、そして名古屋の花柳界へつれて行かれ大層なものでなしを受け意気揚々帰京し毎月名古屋へ集金に行くのが楽しみになりました。何しろ当工場で再生ゴムを造っている故材料は買う必要はなく、加工して売れるんだからこんな面白い事はありませんでした。昭和十四年七月四日親父は脳溢血で倒れ二週間の入院で死亡し、私は二十五才で当主となつたのです。工場内の職工さんは中年以上の者ばかり、私は馬鹿にされるんじゃないかと心痛はしたが、案外二、三の者以外は私の云う事を聞いて作業してくれました。私は不服な職工さんは直にクビにして新規巻直しで立上りました。斯くして名古屋でその或るゴム商店と競争相手に商売の戦いが始つたのです。プレス工場を新設し製品部を創立したのでした。ときに私の知己で以前東京都水道局の技師をしておりました高橋梅吉氏と突然逢いました。彼は水道の継手ゴムの特許を取り何んとかゴムを造つてくれないかと頼まれました。そして名を興亜ジョイントと名称をつけ、彼と共同で之を売りに出したのです。埼玉県川口に試験工場を建て、近所の今井鑄鉄所で鑄物ケースを作らせ、水圧試験をして販売をしたのでした。これが全国的に売れて好評を博し相当な利益を挙げましたのです。別に高橋氏を社長に、専務に私が成り、興亜ジョイント株式会社を創立し、ゴムは私の工場で造りました。

それから水道用ゴムの製造に着手した最初であります。閑話休題、

当時我国は日一日と日支事変も白熱化し、軍部の横暴時代に突入して行つたのでありました。私の工場も東京ゴム製作所、鬼怒川ゴム工業株式会社と共に三田土ゴム（株）の傘下に入り海軍の仕事に切り換えざるを得なくなりましたのです。当時私の友人で錫を取っている東洋砒山（株）（社長は英国人で奥さんが日本人）の常務をやっていた大蔵国彦氏の要請で南方にゴム工場を海軍の指定工場として作りた

老 師 夜 話

曾 我 章

老師は高齢であられる、茶飲み話しをお聞きする、それが楽しみです。私は通っている。

老師曰く、物を一つの役にしか使えないとするのは、とらわれた心である。湯呑は灰皿にもなり秤りにも使え墨壺の役にも立つ、それを一つの役にしか使えないとすることが大きな誤りである。これは本来誰れもが知っていることだが、忘れてしまつているところに社会への捕われがある。人間が自在な多様な者であることを忘れて此れしかやらないと決めてしまつてゐる。そんな者に限つて色々と言ひ立てが上手で自分の生命もおあずかりしている事を忘れて居るので、此の世が曲つてしまふ訳である。試みに、今日から落したら割れる湯呑みを心に持つて人に出合つて見なされ、相手様から大事な何かをいただき、何に使わしていただけたか、毎月が楽しくもなるうし、感謝も生れるはず。時には花の一輪も浮べて己れの心をなごませる喜びもあるうものである。

老師曰く、人は此の世で富を得たいと思う、しかし誰れもが富を得られる訳ではない。人はあの世で浄土に行きたいと思う、しかし誰れもが浄土に行ける訳ではない。富を得るには、小を積んで大を



成す心掛けがある。浄土に入るには屈折びしう西方浄土である。硬くなつた心を有難いと念ずる心が解かして、ほんの僅か肘を伸すだけで浄土に行ける。浄土が隣り合せて有るのを知り得ない。富は人の求める慾である。だが貧にして餅を絵に書いて己れを慰さめる者の心を知らずして、真の富の価値を知り得ぬ。富に溺れても此の世の全てを懐に入れる訳にはいかぬ。されど有難い事に、人の世に借景の智慧あり、月を眺め、花を愛で、天地広大無限なりと言えども此の一点に座して借景することを得る。天地あるがままの価値を知り、富は己れのものとなる。大慾は無慾にすごせる。無慾で有難いと思う心が浄土への近道である。

○

老師曰く、慢れる者も永しく無く、慢れざる者も永しく無い。此の世に在るもの、絶えるもの、形が變つて本質に戻るのみである。修羅場に心安まることなく、己れを見うしない、時のすぎるを知らない。これが人の世の常である。己れを感じるのには社会の外に自分を置いたとき初めて生きている事を感じる、無常によってである。草花に眼をやすめ、水のせせらぎに耳をすまし、虫のすだくに心が引かれる。此れ生きる導である。限りある生命を、よりいとほしいものに感じ、より貴いものとして、勞ゆる心が一瞬たりとも疎かに出来まい。人の世の生きざまの価値を知ることが出来るのも、此の時である。

(城東製作所社長)

自分もよく、相手もよく、 第三者もよし

右 川 清 夫

53年10月12日のサンケイ新聞の主張という欄に、エゴの極・老人ホーム反対、という記事がのっていた。

それは、老令化社会に備えて老人ホームの建設が各地で進められている。ところが、建設反対となえる地域住民の為にトラブルが生じて、障害にのりあがる場合がしばしばだという。

反対の理由はさまざまだが、日照権阻害とか、静かな住宅環境がそこなわれるとかいろいろ理屈をつけてくる。

現在、六十五才以上の人口は総人口の八・六％程度であるが、昭和七十五年にはこれが十四・三％になり、その老人を扶養する人口は大巾に減ってくる。どうやって老令化社会を支えるかは我国の大きな課題であり、老令化社会における日本人全体の問題として考えていかねばならない事柄である。

老人ホームの建設に反対している住民には社会の将来の問題を配慮する気持ちがないのではないか。年寄りをいたわる気持ちがないのだろうか。

という記事であった。

よく総論賛成各論反対という言葉が使われる。矛盾という誤まちは、人間が、いつも犯しやすい。

老人ホームの問題とか色々の問題を提起しそれに対して解決を一つ一つ与えてゆく。人間の生活は、朝起きてから夜ねる迄、そういったサイクルの連続であり、物事を考えるという人間だけに与えられた特権である。

人間の自由は、社会の進歩と共に増加してきた。封建社会において人々は自分で自分の生き方を選択出来る自由はほとんどなかった。凡てが、あらかじめ決められていた。

しかし、民主主義の現在の世の中は、自分が、どのように生きようと、個人の責任にまかされている。どんな生き方を選ぶことも可能だが、それによって選び取った人生コースに生じてくるいろいろの問題は、すべて自分自身が責任を負う覚悟が必要ではなからうか。ここから、私達が、自分自身の生き方に、慎重である必要が生まれてくる。

山に登るにもさまざまなルートがある。人間の生き方についても同様、私達は未来に向かっていろいろな生き方を選ぶ可能性を持っている。

交通標語に、せまい日本、そんなに急いでどこへゆく、というのがある。早くあの世へ行きたければこのせまい国土にひしめき合っている車社会でちょっととしたルール違反をすれば直ちにお迎えが来

るという仕掛けになっている。

私達がどんな生き方を選び取るかという事は、より厳密には、いかに自分の生き方を創造するかと云った方がよいかも知れない。

二年程前にウシオ電機の社長が、同社の年頭のあいさつでこんな事を述べている。

一年三百六十五日、最近は大ざっぱに言って二百五十日働いて、百日休むという。もう少し深く考えてみると一日二十四時間、そのうちの十四時間位が自分の意思で動かせる時間ではないだろうか。一年は三百六十五日×十四時間の約五千時間、一週間は約百時間という勘定になる。最近、一年に二千時間労働というから、五千時間の四割に当る二千時間、一週四十時間を「公」の時間として働く。残りの六割に当たる三千時間、一週間六十時間が「私」の時間である。

一年の計が元旦に始まる今、一人一人の社員諸君が一年五千時間の計画と志をたててほしい。職場での公の時間がおしきせの二千時間であっては意味がない。与えられた舞台に、示されたシナリオ、その中でも個性的な演技、創造的な表現がありうるように、公の二千時間の中に、どのように自分の意味、目的、進歩を考えることができるかが大事である。

「私」の三千時間はもっと意味深い。すべての過ごし方があなた自身にかかっているからである。この一年、自分のどこに大きな価値をおき、どんなことに感動し、何を一つ一つ築き上げてゆくかを

考えて欲しい。

刻々と時間は過ぎつつある。光陰矢の如し、青年老い易く学成り難し。大事に生きよう。

大略こんな内容であった。

私共の一生は、一度しかない。かけがえのない人生である。充実した人生、それは、昨日よりは今日、今日よりは明日をよりよく生きようとする人間の姿にみることが出来る。

私達の凡ての問題は、どんな生き方を選ぶかに集約される。従って人生じっくり腰をおちつけて取り組む必要がある。過日NHKラジオで草野心平氏曰く、秀吉でさえ天下をとる為にその一生を棒にふった。私などもゴム屋になる為に一生を棒にふった。一生を棒にふる位に没頭出来る、生きがいある仕事をもてる事に心から感謝している。

先程も述べたように私共の人生は時間的に限られている。凡ての考え方を学ぶ余裕はない。どうしたら限りあるこの人生を正しく生きることが出来るか。

それは種々起ってくる問題を解決する方法をつくことである。それは私共に常日頃絶え間ない勉強をし、今迄人類の福祉の増進に貢献した人々の生き方を学ぶことが、最善の方法ではないだろうか。福祉の増進とは単に物質的でなく、全人類の全体的な幸福の実現に役立つという意味である。

今日、地球上には約三十七億の人間が住んでいるといわれている。

香 涯 日 記

富 岡 光 雄

朝食をすませて直ぐ近所の花屋に花を探しに行く。前夜寝床の中で考えた花器に生ける花を見つけないからである。勿論床の間の掛けものが先か、花器が先だかそれはどちらでもよい。十月から十一月にかけて来客が多くなるので持成に苦勞すると友人にふと云ったら、逆に楽しんでいないかと羨ましがられた。

過日、故三津五郎の随筆を楽しんだ。先代吉右衛門が汽車の中で懐紙に書いた「あの山にだけ少しある春の雪」とし郎様（三津五郎の本名）波野と署名してある軸を時々なつかしく掛けている様が記されてあった。

又、彼が全く思いもよらず、骨董屋で道庵の手紙を発見し、「これが欲しい」と云ったら、「私が知らなかったものを、あなたが見付けたのですからタダで差上げます」と、骨董屋が言い切った。

道庵は利休の息子。太閤さんが京都に大仏を建立しようと思いついた時、大仏に献茶の出来るものは誰と、利休に問うた時、利休は道庵以外にはないと答えたほどの天才だが、利休の死後消息は歴史から消えている。

「なるほど高い金を出せば良い物が手に入る。しかし高いばかり

これらの人々はそれぞれ違った気候、風土の中で、人種や、民族を異にしそして国家社会の仕組や風俗・習慣など凡て違った状況の中で生活を営んでいる。

しかしその中で人類に共通した一つの目的がある。それは人間一人一人等しく生きて行く上に、自分自身の安心平和と幸福の実現を望むと共に、意義ある人生を送りたいという願いである。

先程、一生を棒にふる程の仕事をやってみることが、その人を幸福にするのと述べたが、我々経営にたずさわる一人一人は、経営者とはどうあるべきかを考える前に、人間として果して自分がどんな考え方で事に処しているかを省りみ、自分ばかりでなく、相手のことも、又第三者的な立場にある人々の事をも思える人間であるかどうかを振り返ってみる必要があると思う。

最初に述べたように、人間はいつも自分本位である。その故にいつも誤まちを犯しやすく、矛盾に満ちた存在である。私共経営者たる者常に心して事に当たりたい。自分は間違っていない、相手が間違っているという性急な結論を急がないで、しかしこの限られた人生という期間損益のバランスをとる役割を持たされているのではなからうか。

（榊右川ゴム製造所代表取締役）



が良い物とは限らない。複製でも結構だし、先輩からもらった手紙を表装しても、心安まる立派なものになるものだし、もともと消息なんぞで、今、何の何と云われるものも、もとはそうしたものだ」と。随筆のあちこちに手紙の内容、日付など、歴史につながる思い出話を、彼の生活体験として楽しく読み終えた。

十月末、青山根津邸で、茶会を兼ねた有名人の茶道具展があった。道庵、少庵の手紙と、先代吉右衛門の汽車の中で書いた懐紙の軸を是非見たいものと出掛けたが、なかった。道庵のそれはあまりにも有名なので出てこないのか、句の方は、人に見せるものゝ程ではないのか。いずれにしろ両方共、当日は蔵の中に押し入れられたまゝだった。

忙中閑ありを看板にしていた彼ではあるが、或る意味では、ゴム人も同様だと思う。風、技を鳴さず、雨、塊を破らない太平の世なら尚更の事。今日、厚い重い不況感が、閑を切り離してしまっただろうか。

「これまでの不況とは明らかに違う」と難しい問題を抱え込んでから五年。出口なしの不況感が日本経済界にどっしりと腰を据えてしまった。猛烈に働きさえすれば良いと云う時代はもう去った。低速飛行の中でこそと、経営者は新しい哲学を確立しつつある。円高の一寸刻みがじわじわと時を掛けて効いて来ている。洪水の中で、口迄水がやって来たら鼻先を水の上に出す以外ない。

それぞれに一息も二息もついて、新しいテーマを見出し頑張っ

ている我が同志墨東ゴム工業会の昨今の諸兄であります。

高度成長下に、功成り、名も成り、従って財も成した。其の栄光を背負って退いた、トップ交代劇が一頻あって数年。大企業に見る代表権者複数制、四人五人もの代表権を有する例も少なくない。

中小企業の我経営陣は、将に孤軍奮闘。「自分の企業は自分で護れ」は前長瀬会長の生前よく言われた言葉でした。国内の総裁選後の経済界がどう動くのか、「毛沢東の遺産」の当否、善悪等々刻一刻烈しく変わりつゝある内で、やはり私共は今、一息も二息も深呼吸をして、もう一度冷静に新しい時代に対応したいと思ひます。

(昭和五十三年十一月二十六日記)

(富岡調帯株式会社社長)



トンだ大ちがい

堀川 英 則

今から約十二年前、関西にあるベルトメーカーのコンベヤベルト設計課に籍を置いてまもなくの事です。海外からのテレックスが入り運搬量二千五百万トンという大きな量を運搬するベルトの設計依頼がありました。ご案内の通りコンベヤベルトは運搬量を基に、ベルト張力・動力等の各種計算を行なうのです。小生何んの抵抗もなくその二千五百万トンをそのまま計算数値の基礎として算出し、得意満面、上司にチェックを依頼いたしました。上司は難かしい顔をされて計算尺を動かしておられました。『君、この二千五百万トンはロングトンか、メタリックトンか?』と問われました。小生、『一トンは一トンで計算しました』、と今思うと恥かしい事です。(知らぬ強みで)真顔でしかもこの上司は何を云っているのだろと内思いながら返事をしました。上司は『一応ロングトンで算出しておいた方が無難だよ。君ショートトンとロングトンは知ってるね』と云われました。小生『え……!?!』、上司『君よく勉強して再計算しなアカン!』、小生シューンとなって自席に戻りトンはトンなのにと思ひながらも換算表やら機械便覧をながめていました。あっ! あった。仏トンは千キログラム(メタリックトン)、英ト

【沿革】

明治四十五年個人経営で創立、大正十二年関東大震災により当時の主力工場猿江工場を閉鎖し現本社工場に一本化昭和二年合資会社に改組、七年自動車用ゴム部品の製造販売に着手、二十三年株式会社に改組、三十六年神奈川県藤沢市に藤沢工場建設着手、四十一年同工場に最新式二連式ラバーインジェクションマシン及び八連式ロータリープレスなどを導入、進歩改革をはかる、四十二年従業員に株式を公開、四十三年本社工場増設に着手、四十七年藤沢工場をゴムホース専門工場とするため、省力化、近代化に五千万円を投入し量産体制を確立、四十八年岩手県稗貫郡石鳥谷町に岩手工場建設、四十九年岩手工場第二期工事に平手、同年本社工場の精密機器部品専門工場建設に着手。

ンは二千二百ポンド(ロングトン)、米トンは二千ポンド(ショートトン)と記載されている。二千五百万トンが英トンとすると、約二千五百四十万トンとなり四十万トンの差が出ることになる。驚いたり、一トンは一トンでなかったということです。我ながらに大きな差にビックリすると同時に先刻の上司とのやりとりを思ひて赤面した次第です。

しかし、知らぬという事は本当に強く、また恐ろしいものと、時折思ひ出しては苦笑しております。

(堀川ゴム工業(株)社長)



事務局報告

事務局 桑 沢 謙 吉

五三、四、六 常任理事会 於・三笠会館

出席者 ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴ

ム、田中ゴム、堀川ゴム、城東

製作所。

健康医学協会の説明の後、総会に対する
決算と事業報告、会則の一部変更の件、事
業と予算案の審議。

五月一三、一四両日予定の見学旅行会の会
費を一万二千元と決定、大内新興須賀川工
場、会津若松方面と希望、又会報の現状の
報告がある。東都ゴム工業㈱久松社長来社、

会長に工場を八潮に、近い将来又入会した
いの挨拶、堀川ゴム工業㈱社長より、山崎
化学の社長胆石のため入院、一応堀川社長
見舞いに行かれるので、その結果でどのこ
ととなる。

五三、四、二〇 総会 於・大和田

参加者 二二社 委任状 一六社

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、田中ゴ

ム、東京ゴム、鶴岡ゴム、城東製作所、東

伸ゴム、鯉洲ゴム、堀川ゴム、滝野ゴム、

金星ゴム、堀田ゴム、東武ゴムセンター、

三洋ゴム、水留ゴム、共和ゴム、富岡調帯、

東辰ゴム、森田ゴム、東京ゴム製品、共和

ゴム工業。

講師 明大教授・渡辺 陸 氏

演題 今後の景気の見通しと、中小企

業のあり方について

会則の一部改正を行い、会費を

改正前

改正

一九名以下 一、〇〇〇 二、〇〇〇

四九名以下 一、五〇〇 三、〇〇〇

九名以下 二、五〇〇 五、〇〇〇
一〇〇名以上四、〇〇〇 八、〇〇〇
と決定された。

株式会社・東辰ゴム。共和ゴム工業㈱
東京ゴム製品工業㈱ の新入会員の紹介
と三社の挨拶があり、宴に入り、八時三〇
分終了。

五三、四、一四 埼玉中央病院に、山崎

化学工業㈱社長を、中川ゴム・ヒノデワシ

右川ゴム 三社による見舞い。

五三、四、二〇 一五時

株式会社・青木エボナイト製造所 会長・

青木孫三郎殿 死去。四、二七 通夜。四、

二八 一一二時 葬儀、二一三時 告別式

五三、五、一三、一四 見学旅行会

参加者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴ

ム、富岡調帯、田中ゴム、水留ゴム、鶴岡

ゴム、八幡ゴム、青木エボナイト、堀川ゴ

ム、三洋ゴム、森田ゴム、東京ゴム製品、

共和ゴム工業、東伸ゴム、ダブルスターゴ

ム、東武ゴムセンター、大内新興、十九社

五、一三 七時 長瀬ゴム出発 八時三十

分、蓮田S A 八時四十五分 一〇時二五

分 那須高原S A 一〇時四〇分 一一

時三〇分 大内新興須賀川工場着 一二時

迄工場見学 一二時二〇分牡丹園(昼食)

郡山 一四時 一五時三〇分 堅田 一五

時四〇分 会津若松芦ノ牧温泉大川荘

一七時一〇分着

五、一四 九時出発 武家屋敷 鶴ヶ城

塔のヘコリより、会津島田にて昼会 一三

時三〇分 一四時四十五分 五十里湖 一

五時 宇都宮 蓮田S A 一七時五分 発

一九時二〇分 東京着解散

出発前日迄一週間も雨、旅行の二日間は気

温も高く好天気、両日共予定通りの時間に

て会員全員、元気での見学旅行会であった。

五三、六、一 常任理事会 於・三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴ

ム、田中ゴム、富岡調帯、堀川ゴム、八幡

ゴム、金星ゴム。

各部会の編成の件 三木会の予定 職業

安定所説明の件 日本ゴム工業会 中小企

業委員会 代表の件 五三年度会費訂正の

件 旅行会の会計報告等の後、中川ゴム社

長の、副会長長辞任申出に対して、会長・副

会長・庶務部長・富岡・田中両常任理事の

五名にて訪問、翻意の願ひに出る事とする。

五三、六、一二 山崎化学工業㈱社長

山崎春治殿 午前九時四十五分 死去

一三日 七一九時 通 夜

一四日 一一二時 告別式

五三、六、一六 三木会 於・三笠会館

右出席者

右川ゴム、東京ゴム、東京ゴム、田中ゴ

堀川ゴム、堀田ゴム、金星ゴム、水留ゴム

常盤ゴム、東和製作所、森田ゴム。

講師 墨田区公共職業安定所

事業所課長 神田次男 氏

演題 雇用保険四事業等給付金制度に就

て

五三、七、一三 ゴムタイムス紙座談会

出席者 於・三笠会館

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、田中ゴ

ム、鶴岡ゴム、八幡ゴム、城東製作所。

テーマ

主題 墨東ゴム工業会の進路II中小ゴム企

業の展望

(1) 墨東ゴム工業会々員の動向

会員の異動、従業員数、各企業の

操業度、生産性、回収状態等

(2) 問題点と工業会の重点施策

(3) 中小ゴム企業の将来性II繁栄のみち

は何か……指導力・特技・内部保留

等

五三、七、二〇 三木会 於・三笠会館

出席者

右川ゴム、富岡調帯、鶴岡ゴム、田中ゴ

ム、八幡ゴム、青木エボナイト、堀川ゴ

堀川ゴム、城東製作所、堀田ゴム、滝野ゴム、水留ゴム、森田ゴム、東和製作所、共和ゴム、共和ゴム工業。

講師 墨田区役所 中小企業診断

田中加一氏

演題 ゴム中小企業の経済動向

五三、八、一七 三木会

参加者

長瀬ゴム、長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、右川ゴム、右川ゴム、右川ゴム、右川ゴム、田中ゴム、堀川ゴム、堀田ゴム、堀田ゴム、森田ゴム、共和ゴム工業。

東京都観光汽船株式会社（花川戸）に、五

時三〇分集合、六時発にて、竹芝 六時三〇分着、七時一八時半 出船、右川庶務部長の司会に依り、会長の挨拶。副会長の音頭にて乾杯、暫くは、ビール・パーベキュー、食事後 歌となり、夜影を見る暇もない程の楽しい宴となり、着船、竹芝にて解散。

五三、九、二一 三木会 於・三笠会館

出席者

長瀬ゴム、長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、東京ゴム、東京ゴム、八幡ゴム、田中ゴム、東伸ゴム、堀川ゴム、鯉淵ゴム、堀田ゴム、常盤ゴム、東和製作所、森田ゴム、共和ゴム工業、東辰ゴム。

講師 東曹東京研究所 技術サービスセ

ンター室 佐藤CR総括主任殿

演歌 夏期におけるCRの取扱いについて

五三、一〇、五 常任理事会 於・三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、東京ゴム、田中ゴム、八幡ゴム、堀川ゴム。

五、三〇一五、四五 ガン保険の説明

一〇月一九日 三木会の講師と演題の件

十一月一六日 三木会 斎藤栄三郎氏

十二月二一日 忘年会 東武飯店 と決定

五三、一〇、一九 三木会 於・三笠会館

出席者

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調帯、八幡ゴム、堀川ゴム、城東製作所、滝野ゴム、水留ゴム、森田ゴム、東辰ゴム、マシミゴム、堀田ゴム、共和ゴム工業。

講師 全日本労務協会 南谷専務理事殿

演題 これからの小規模企業の賃金と退職金について

職金について

五三、一一、八 編集委員会 於・三笠会館

出席者

ヒノデワシ、右川ゴム、富岡調帯、鯉淵ゴム。

原稿の件 一十月末日迄 各部会で一編づつという案と、長老による座談会の案、又外部からの案、又各人の趣味娯楽等の案等提案。

五三、一一、一六 三木会 於・三笠会館

出席者

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調帯、東伸ゴム、田中ゴム、八幡ゴム、水留

ゴム、堀川ゴム、堀田ゴム、金星ゴム、城

東製作所、芹沢ゴム、協伸ゴム、常盤ゴム

森田ゴム、東辰ゴム、大協ゴム、三洋ゴム

ダブルスターゴム、共和ゴム工業、東京ゴ

ム製品工業。

講師 斎藤栄三郎氏

演題 景気の動きと中小企業

（一般消費税問題等）

五三、一二、七 常任理事会 於・三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、東京ゴム、富岡調帯、八幡ゴム、城東製作所、堀川ゴム。

新入会員 大蔵ゴム㈱、水谷化学工業、村

田ゴム工業所 以上三社の入会を承認。

一月一八日の会場を、三とも又は大和田とする。二月の三木会、厚生部門、城東製作所社長に講師を依頼。

五三、一二、九 長老座談会 於・葵丸進

出席者

鶴岡ゴム、東京ゴム、芹沢ゴム、金星ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、富岡調帯。

五三、一二、一三 忘年会 於・東武飯店

出席者

長瀬ゴム、右川ゴム、東京ゴム、田中ゴム

中川ゴム、鶴岡ゴム、東伸ゴム、富岡調帯

堀田ゴム、八幡ゴム、大協ゴム、共和ゴム

マシミゴム、森田ゴム、三洋ゴム、シバタ

大蔵ゴム、鯉淵ゴム、ダブルスターゴム、

東武ゴムセンター。

五時四五分 会長挨拶 新入会員発表 新

入会員の挨拶の後、富岡氏の乾杯音頭にて

宴に入る。

五四、一、一八 三木会（兼新年会）

於・改進黨

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、東京ゴム、富岡調帯、田中ゴム、鶴岡ゴム、八幡ゴム、堀川ゴム、城東製作所、東伸ゴム、鯉淵ゴム、堀田ゴム、滝野ゴム、山崎化学、シバタ、三洋ゴム、大協ゴム、東和製作所、大蔵ゴム、村田ゴム、森田ゴム、佐藤ゴム、水谷化学、共和ゴム工業。





才六十三号

(第16卷 第1号)

昭和五十四年二月二十五日 印刷刷

昭和五十四年二月二十八日 発行

発行人 長瀬泰吉

編集人 墨東ゴム工業会編集委員会

発行所 東京都墨田区墨田二―三五―六号
(長瀬ゴム工業内)

墨東ゴム工業会

制作 東京都墨田区八広六一五八―七

詢うぬまプリント